

十勝岳山麓

探索ガイド

美瑛
コース



火山の恵みに触れる

災害の歴史を知る

防災対策を学ぶ

十勝岳 噴火の歴史

今見ることのできる十勝岳の山々ができ始めたのは、諸説ありますが今からおおよそ20万年前ごろと考えられています。主峰の十勝岳は現在も活発に火山活動を続けており、1926年(大正15年)・1962年(昭和37年)・1988～1989年(昭和63年～平成元年)と、20世紀中に3回の主な噴火が起こっています。1926年5月の噴火では、熱い岩なだれが残雪をとがして泥流が発生し、ふもとへと流れ下って144名の死者・行方不明者が出ました。1962年6月の噴火でも、鉱山や気象台職員の方16名の死傷者が出ています。また、1988年12月から翌1989年3月にかけて、小さい規模ではありましたが20回を超える噴火が起きました。12月25日(クリスマス)深夜の噴火では、火柱が上がり、熱い岩や火山灰(小型の火砕流)が雪の上を走る様子が気象台によって撮影されました。



1926年噴火の泥流
(当時の上富良野市街地)
写真:上富良野町教育委員会



1962年噴火の噴煙の様子
(1万m以上の高さ上昇)
写真:大場嗣 氏



1988年噴火の様子
(火柱と雪の上を走る火砕流)
写真:旭川地方気象台

1 三愛の丘展望公園(軽石と火山灰でできた丘)

美瑛の美しい丘ができた理由

ふもとから見る十勝岳の山並みはとても雄大で、私たちの目を楽しませてくれます。また、ふもとの丘はなだらかで、この三愛の丘や、その近くにある千代田の丘からの眺望のように、山並みと合わせた景色がたいへん綺麗です。なだらかな土地は、畑や牧場等にも利用されています。

今からおおよそ100万年前(地球上にマンモスがいた時代)、まだ十勝岳も無かった頃に、この地でとてつもない巨大噴火が起きました。大量の軽石や火山灰が、火山ガスと一緒に熱い雲(大規模火砕流)となって波長の長い波のように流れ、美瑛～富良野周辺を広くおおいました。なだらかな丘は、この時の軽石や火山灰でできています。



三愛の丘の周りや、丘を降りて白金温泉に向かう途中の道路からは、畑越しに、人工的に作られた崖(切り土)をあちこちで見ることができます。この崖が、大量の軽石や火山灰でできた丘の断面で、全体的に白い色をしています。



千代田の丘展望公園

三愛の丘展望公園
(写真:中西敏貴氏)



美瑛から富良野にかけて、多くのラベンダー畑がありますが、この畑も水はけの良い軽石や火山灰でできた土地を利用しています。火山灰は白っぽく、石英の結晶や火山ガラスが入っているので、陽に当たるとキラキラ光って見えます。

2 白樺街道

林に残された大正泥流の記録

美瑛の市街地から白金温泉に向かう道路で、白金温泉に入る少し手前の道路の両側に、北海道自然百選にも選ばれた、見事な白樺の並木が3kmほど続いています。この白樺並木を良く見ると、木々の幹はそれほど太くなく、また、全体的に太さがそろっていることが分かります。ここは、1926年の十勝岳の噴火で発生した大正泥流が襲った場所です。当時の森林は全面的に泥流になぎ倒され、硫黄を含んだ荒れた河原になりました。その後何年かは、植物が芽生えてもすぐに枯れてしまったようですが、酸性の土に強い白樺は6~7年後ぐらいから集団をなして育ち始めました。「白樺街道」は、大正泥流発生後に成長した自然回復の並木です。



美瑛市街地寄りの白樺並木は植林されたものが多く、まだ幹が細い木々です。自然回復の並木は、道脇に遊歩道が付けられた区間が見頃です。



3 白ひげの滝 (ブルーリバー橋)

火山と地下水がもたらす恵み

温泉は、地面にしみこんだ地下水が、火山の地下にあるマグマの熱で温められ、様々な鉱物や成分が混じり込んでくるものです。人間にとっては、大きな火山の恵みの1つと言えるでしょう。十勝岳のふもとにも、白金温泉を始め、多くの温泉郷があります。白金温泉街から美瑛川向こうの高台方向にかかるブルーリバー橋の上で、水がしたたり落ちている崖を眺めてみましょう。地下にしみ込んだ雨水や雪解け水が、火山灰や溶岩でできた古い地層の間を通過して、ここで滝になって流れ落ちます。川の水は、化学成分の影響で青みがかり、崖には様々な鉱物の結晶が付いてクリーム色に変色している所があります。

橋を渡ると、火山砂防情報センターへと登る避難用シェルターがあります。階段は286段あって、情報センター入口までは6分ほどかかります。



4 十勝岳火山砂防情報センター

火山と砂防を学ぶ施設

このセンターは、十勝岳の様子を24時間監視すると共に、火山砂防事業に関する様々な情報を発信しています。また、広い駐車場とヘリポートを兼ねた広場が設置され、美瑛川河床から100mほど高い台地の上に建てられているので、泥流の発生に備えた避難所としても利用することになっています。



電話 0166-94-3301
開館時間
9月~10月 午前8時~午後5時
11月~4月 午前10時~午後4時(休館日)

施設の1階には、火山泥流などを迫力ある映像で疑似体験できる3Dシアターや、クイズ・ゲームコーナー、見る方向を手で操作できる監視カメラモニターなどがあります。2階には、火山や十勝岳の自然に関する情報展示があります。3階には集中管理室がありますが、入室許可が必要です。



1階 3Dシアター



2階 標本などの展示コーナー

5 白金温泉・十勝岳流路工

温泉街の中に造った泥流を流す水路

大正噴火の時の泥流は、現在の白金温泉の温泉街を溢れるように流れました。そこで、泥流の流路を固定し、安全に下流へと流すため、「流路工」と呼ばれる水路が作られました。普段の流路工は親水公園としても利用できるように、水路や歩道が付けられ、溶岩などの自然の石を使うことで、山々の風景にも馴染むように工夫されています。



白金温泉街の橋から見た流路工

温泉街から望岳台へ向かう道を少し上がった所に橋があります。橋の上流側には、泥流の土砂を一度ためて流れの勢いを弱める砂防えん堤(ダム)が見えます。橋の下流側では、流路工の全景を眺めることができます。



砂防えん堤 (橋の上流側)



流路工 (橋の下流側)

6 望岳台

活火山・十勝岳の息吹

天気の良いときは、望岳台から、白い噴気を上げる火口の様子がよく見えます。現在一番活発に噴気を上げているのは1962年(昭和37年)の噴火でできた62-2火口です。その左隣に、まるでスプーンでえぐったように開いている地形が見えますが、これがふもとに大きな災害をもたらした1926年(大正15年)の大正噴火による火口です。火口下の斜面が、少し黄色っぽく滑らかになっていますが、ここが大正噴火で崩れた岩・砂・粘土などがたまっている所です。

望岳台レストハウスの脇には、様々な観測機器が置かれています。公衆トイレの奥には、火口の様子や泥流の発生を24時間監視するカメラを付けた塔が建っています。



望岳台から眺めた火口の様子



監視カメラ



望岳台レストハウス
営業期間:4月～10月

7 登山道沿いの沢(ガリー)

軽登山者向けの見学ポイントです

火砕流に蒸し焼きにされた木

望岳台から10分ほど登山道を歩き、丸谷温泉遭難者慰霊碑から右の方向に少し進むと、雨水によって侵食された小さな沢(ガリー)があります。石や砂が集まってできているので脆く、流水があると横が崩れ落ち、ガリーの幅は広がっていきます。

このガリーの断面では、山頂付近から流れた火砕流の地層が見られます。火砕流とは、非常に高温の石や砂とガスが入り交じって、高速で流れ下る現象です。ここで見られる火砕流は、おおよそ3000年ほど前の噴火で流下したと考えられています。真っ黒な炭が見つかることから、当時生えていた木が高温の火砕流で焼かれたことが分かります。炭は、断面の下部にある、土が酸化して赤茶けた固い層の直下によく挟まっています。石が落ちてくるのに気を付けながら、炭を探してみましょう。



断面下部の赤茶けた層
侵食で広がる沢(ガリー)



赤茶けた地層の直下に挟まる炭



大正大爆発
丸谷温泉遭難者慰霊碑

8 望岳台・探勝路

軽登山者向けの見学ポイントです

溶岩の岩場に住む生き物たち

望岳台のそばには、環境省が整備し、北海道森林管理局が管理する、溶岩の岩場と植物群落の自然探勝路があります。探勝路を歩いてみると、十勝岳の噴火でできた溶岩の岩場を見ることができます。この溶岩は、今からおおよそ300～500年前の噴火で流れた溶岩流の跡と考えられています。溶岩がブロックのように積み重なっている様子を観察してみましょう。

このゴツゴツした溶岩のすき間は、適度な温度を保つ空間と水はけの良さを持っており、エゾナキウサギ等の動物たちや、高山植物に住み良い環境を与えています。探勝路を辿って行くと、可憐な高山植物たちが目を楽ませてください。



シラタマノキ
花期:夏



エゾオヤマノ
リンドウ
花期:8～9月

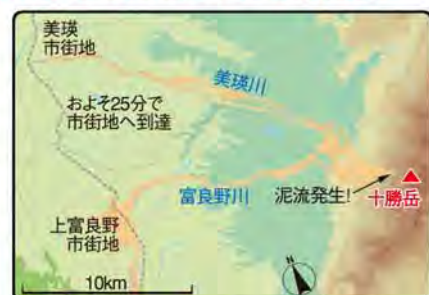


エゾナキウサギの生息地にもなっている
おおよそ300～500年前の噴火で流れた溶岩の岩場

9 白金温泉～美瑛市街地

大正泥流のおおよその速さを体感

大正時代の十勝岳噴火(1926年5月)で泥流が起きた時、当時の記録によると、おおよそ25km離れたふもとの市街地付近に泥流が到達するまで、爆発が起きてから約25分かかったと言われています。大体の平均時速に直すと時速60kmほどになり、車が普通に走る時のスピードに当たります。白金温泉から美瑛市街地に向かう道路を車で走っている時に、泥流が流れるおおよその速さを感じ取ってみましょう。



爆発で崩れた高温の土砂が融雪を起こし、火山泥流が発生しました。



高速・高破壊力の火山泥流



大正泥流通過直後の森林の惨状
写真:東京大学・多田文男教授(当時)

10 十勝岳爆発遭難記念碑駐車公園

大正泥流に埋もれていた大きな岩

遭難記念碑の土台となっている直径4mにもなる大きな岩は、大正泥流に埋もれていたものと言われています(記念碑横の看板に昔の写真があります)。富良野川が現在流れている場所よりも高い所まで、泥流が溢れて流れたことが分かります。下の写真中、オレンジの線は泥流の本流が流れた幅で、記念碑の大岩はそのほぼ端にあります。



泥流は大きな岩だけでなく、森林を破壊して多量の流木も伴ったため、市街地で多くの家や田畑を破壊しました。大正泥流を体験された方のお話で、この付近の泥流のスピードは、人が走るよりもずっと速かったことが分かっています。

公園入口の標識



美瑛川沿いの砂防施設紹介

美瑛川ブロックえん堤

噴火に備えて緊急に造られたえん堤

近くにクレー射撃場があり、注意が必要です。

白金温泉から下流の美瑛川沿いには多くの砂防施設が造られており、美瑛川ブロックえん堤(ダム)もその1つです。このえん堤は、港などでも使われるようなコンクリートブロックを組み合わせで作ります。普通のコンクリートダムは完成までに何年もかかりますが、ブロックえん堤は数ヶ月ほどの短い間で完成できます。



美瑛川ブロックえん堤(平成17年撮影)



同じ箇所(平成19年撮影)

十勝岳の大正噴火では、美瑛川沿いにも泥流が流下しました。1988年の噴火の時も大きな泥流災害が心配されたため、泥流の被害を防ぐために、急いでブロックえん堤を美瑛川に作り直しました。その後、噴火からおおよそ20年がたったことで、改修がなされました。

11 上富良野町開拓記念館

大正泥流の被害の様子を知る

上富良野町開拓記念館は、大正泥流災害当時の上富良野村長(吉田貞次郎さん)の住まいを復元したものです。中には、大正泥流の被害にまつわる新聞記事や写真、8ミリ映像などの展示があります。大正泥流を題材にした三浦綾子さんの小説「泥流地帯」の文学碑もあります。



中を見学されたい時のお問い合わせ先
上富良野町教育委員会 電話(0167)45-5511

12 草分防災センター

土を盛って造ったセーフティーゾーン

草分防災センターは、上流のダムにたまっていった土砂を盛って造った高台に建っています。大正泥流よりも高く造られており、噴火の時などの避難所として使うようになっています。



白金温泉・美瑛町観光センター

白金温泉周辺の情報を得られる施設

白金温泉街のほぼ中央に、美瑛町の観光センターがあります。十勝岳流路工(親水公園)も、ここから歩いて2~3分です。郵便局にもなっているほか、白金温泉周辺の自然や観光について様々な情報を得ることができます。施設の中には十勝岳周辺の風景や動植物の写真の展示があります(美瑛のネイチャークラブによる写真館などもあります)。火口などを眺めるための望遠鏡も置かれています。



電話(0166)94-3025
・11月~4月/10:00~16:30
・5月~10月(7・8・9月は無休)/9:00~17:30
定休日 木曜(7・8・9月無休) 年末年始 休館



十勝岳山麓探索ガイド(美瑛コース)

- 企画・発行:北海道開発局 旭川開発建設部
〒078-8513 旭川市宮前通東4155番31 電話(0166)32-1111(代表)
- 制作:特定非営利活動法人 砂防広報センター
- 写真・地図提供(アイウエオ順)
旭川地方気象台、上富良野町教育委員会、(株)アドス・エージェンシー、美瑛町観光協会、北海道地図株式会社